

科目名	論理学	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的: 思考の形成を学び論理的思考および文章表現法を身につける。</p> <p>目標: 1. 論理的に思考する方法を理解する。 2. 文章構成の基本が理解できる。 3. 論理的に筋道を立てて考え、看護に必要な文章表現法を身につける</p>			
講義計画			
1回目	倫理学の概要と心得		
2回目	倫理学の概要と言語		
3回目	論理学と言語		
4回目	論理学とは(概念について)		
5回目	概念判断について		
6回目	判断推理について(演繹推理)		
7回目	推理(演繹推理、帰納推理)について		
8回目	誤謬論について		
9回目	文章学(文章、文章の構造、構成)		
10回目	文章構造と分析、まとめ		
11回目	レポート・論文作成の心得		
12回目	レポート、論文の構成、参考引用文献		
13回目	参考文献・引用文献・注記の記載法		
14回目	学生各自のレポート、論文作成、相談		
15回目	レポート・論文作成		
評価方法			
筆記テスト、演習レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
「レポート・小論文の書き方」日本経済新聞社、「入門！論理学」 中央公論新社、 「思考・論理・分析」産業能率大学出版部、「新版 論理トレーニング」 産業図書(株)			

科目名	情報科学 I	開講時期	2 年次 前期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的:統計の基礎的知識とその考え方を身につけ、研究的な思考力を養う。また情報処理の基礎をふまえ、情報を活用する方法を学ぶ。</p> <p>目標:1. 情報を科学的に収集、分析、整理する方法を理解する。 2. 統計の基礎的知識を習得し、看護研究に活用する方法を学ぶ。 3. パーソナルコンピュータを活用した情報処理の基本操作を身につける。:</p>			
講義計画			
1 回目	オリエンテーション 統計とは		
2 回目	Ward 入門(1)		
3 回目	Ward 入門(2)		
4 回目	Ward 応用		
5 回目	Excel 入門(1)		
6 回目	Excel 入門(2)		
7 回目	Excel チェックテスト		
8 回目	Excel テストの解説		
9 回目	統計(1)度数分布		
10 回目	統計(2)標準偏差 Excel による統計解析 分散		
11 回目	統計(3)標準偏差 Excel による統計解析 (2)		
12 回目	統計(4)標準偏差 Excel による統計解析 (3)		
13 回目	統計(5)ピボットテーブル		
14 回目	統計(6) 統計の復習		
15 回目	テスト		
評価方法			
筆記テスト、演習課題			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>系統看護学講座 看護情報学 医学書院</p>			

科目名	情報科学Ⅱ	開講時期	2年次 後期
単位数(時間数)	1単位(15時間)	担当教員	
授業形式	講義 演習		
講義概要			
<p>目的:医療情報システムの実際を学ぶ。 目標:情報社会と看護の関連性について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	情報セキュリティ		
2回目	プレゼンテーション①		
3回目	プレゼンテーション②		
4回目	プレゼンテーション③		
5回目	プレゼンテーション(最終発表)		
6回目	国際海洋環境情報センター見学		
7回目	国際海洋環境情報センター見学		
8回目	院内における電子カルテ		
評価方法			
パワーポイント(電子ファイル)作成、及び発表技法、課題レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
系統看護学講座 看護情報学 医学書院			

科目名	教育学	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義 演習		
講義概要			
<p>目的:人間形成における教育の重要性を理解し、看護に応用できる教育・指導の基礎を学ぶ。</p> <p>目標:1. 人間形成における教育の意義と機能を理解する。 2. 教育・指導の基礎的知識が理解できる。 3. 看護における教育的活動の意義を理解する 4. 指導の基礎的技術を身につける</p>			
講義計画			
1回目	看護と教育の関係性を考える		
2回目	いじめ問題を考える		
3回目	出席停止は是非か		
4回目	不登校問題を考える		
5回目	看護における学習支援とは		
6回目	不登校問題を考える2		
7回目	不登校問題を論議する		
8回目	カウンセリングについて考える		
9回目	生活指導について考える		
10回目	指導案作成の検討		
11回目	指導案作成グループワーク		
12回目	学校における「人権」を考える		
13回目	集団指導発表会		
14回目	個別指導発表会		
15回目	学習のまとめ		
評価方法			
筆記テスト、演習レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
教育学 医学書院			

科目名	英語 I	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的:英語の基礎能力を高め、国際共通語によるコミュニケーション能力を養う。 目標:1. 基礎的な日常会話ができる。 2. 基礎的な英語での表現ができる。</p>			
講義計画			
1 回目	オリエンテーション、Unit 1		
2 回目	Unit1 New Faces Unit2 New Places		
3 回目	Unit2 I like That, Too !		
4 回目	Unit3 Special Interests		
5 回目	Unit4 I like your clothes		
6 回目	Unit5 You're Always Late !		
7 回目	Unit6 Let's have a party !		
8 回目	Unit7 Different Abilities		
9 回目	Unit8 How was your day ?		
10 回目	Film		
11 回目	Film		
12 回目	Unit9 Where Did You Get That Tan ?		
13 回目	Unit10 I Never Know That !		
14 回目	Unit11 What Did He Look like ?		
15 回目	Unit12 Planning for Tomorrow		
評価方法			
筆記テスト、課題レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
ADVANTAGE—Get Going マクミラン ランゲージハウス			

科目名	英語Ⅱ	開講時期	3年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的: 英語圏医療現場の実際を体験し、医学英語を理解するとともに、英会話の実際を通して異文化を理解する。</p> <p>目標: 1. 医学英語を理解し、看護に活用することができる。 2. 医療の場で、看護英会話によるコミュニケーションができる 3. 日米医療の比較を通して異文化を理解する</p>			
講義計画			
1回目	introduction		
2回目	Unit 1		
3回目	Unit2		
4回目	Unit3		
5回目	Unit4		
6回目	Unit5		
7回目	Unit6		
8回目	Unit7,8		
9回目	Unit9,10		
10回目	Unit11,12		
11回目	print		
12回目	医療の場における英会話の実際		
13回目	米国医療の現状		
14回目	医療機器・看護用品の活用		
15回目	日米医療の比較		
評価方法			
筆記テスト、体験レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
「Health Talk」 ピアソン エデュケーション			

科目名	心理学 I	開講時期	1 年次 前期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	金城 亮
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的:人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、人間に対する理解を深め、自己を客観的に分析する能力を養う。</p> <p>目標:1. 人間の心理や行動の原理を理解する。 2. 人間の各発達段階における心理的特徴を理解する。 3. 自己の性格や行動を客観的に分析し、自己の特徴を確認する。</p>			
講義計画			
1 回目	イントロダクション — 心とは何か		
2 回目	心理学の研究法		
3 回目	人間性のモデル、“わたしの成り立ち I”		
4 回目	“わたし”の成り立ち I — 自己認知		
5 回目	“わたし”の成り立ち II — 性格		
6 回目	性格(エゴグラム自己分析)		
7 回目	“わたしの成立 III” — 発達		
8 回目	“ ” 発達課題		
9 回目	“ ころのシステム” — 記憶		
10 回目	記憶の忘却と変容		
11 回目	記憶のまとめ、“ ころのシステム” — 学習		
12 回目	学習(2 つの条件づけと社会的学習)		
13 回目	社会的学習、適応への援助		
14 回目	適応への援助 — ストレスとその対処		
15 回目	“ ころのシステム I” — 知覚		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
グラフィック心理学 サイエンス社			

科目名	心理学Ⅱ	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	1単位(15時間)	担当教員	
授業形式	講義 演習		
講義概要			
<p>目的:集団心理や行動の特質、およびリーダーシップについて学び、円滑な人間関係を築く能力を養う。</p> <p>目標:1. 集団中での人間の心理や行動の特質を理解する。 2. 個人が集団を動かすための働きかけについて理解する。</p>			
講義計画			
1回目	グループ編成・アイスブレイキング		
2回目	講義Ⅰ:集団の発達とダイナミクス		
3回目	研修Ⅰ:コンセンサス課題		
4回目	講義Ⅱ:コミュニケーションの課題		
5回目	研修Ⅱ:集団の力①ファクションショー		
6回目	講義Ⅲ:集団活動とリーダーシップ		
7回目	研修Ⅲ:集団の力Ⅱ絵合わせ		
8回目	研修Ⅳ:看護職者のリーダーシップ		
9回目	まとめ:アクションプログラム、自己への手紙		
評価方法			
筆記テスト、演習レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
人間関係講座テキスト			

科目名	社会学	開講時期	1年次 後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的:社会学の基礎理論をふまえ、個人と社会集団・地域社会・社会文化などを学び、社会的存在としての人間を理解する。また、社会の動きに関心を持ち、人間をとりまく社会現象(事実)を見極める能力を養う。</p> <p>目標:1. 社会構造とその機能について理解する。 2. 人間と社会との関係やその相互作用について理解する。 3. 家族および家族関係と看護との関連について理解できる。 4. 社会の動きに関心を示す。</p>			
講義計画			
1回目	社会学とは 社会調査について、“自分とは”		
2回目	プレゼンテーションと調査の説明・役割・ラベリングステレオタイプ		
3回目	文化相応主義、異文化交流		
4回目	アイデンティティ、自我 “自分らしさ” 映画 I		
5回目	男らしさ、女らしさ、ジェンダースタディ		
6回目	ジェンダーとセクシュアリティ		
7回目	家族①のかたち、セクシュアリティ		
8回目	家族②		
9回目	父親・母親 映画 II		
10回目	家族③子ども、共働き、子どもの貧困		
11回目	子ども、高齢者、家族④		
12回目	障がい者、社会的マイノリティ		
13回目	職業意識		
14回目	集団、県民投票、“みんな”		
15回目			
評価方法	筆記テスト		
参考書、テキスト、参考文献			
「コミュニティを問いなおすーつながり・都市・日本社会の未来」ちくま書房			

科目名	生活科学	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的:生活を科学的に捉えることで人間の生活についての理解を深める。 目標:1.衣食住についての原理が理解でき、自己の生活にいかす。 2.生活と健康との関係について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	社会科学とは		
2回目	住居の役割と機能		
3回目	生活行動と生活空間		
4回目	安全な住まい		
5回目	住環境と健康		
6回目	衣服の役割と機能		
7回目	被服材料		
8回目	被服と体温		
9回目	被服の安全		
10回目	食事の役割と現代の職の問題		
11回目	栄養素と食品		
12回目	食事と健康		
13回目	食の安全		
14回目	食の選択		
15回目	試験 まとめ		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			

科目名	スポーツレクリエーション	開講時期	3年次 後期
単位数(時間数)	2単位(45時間)	担当教員	
授業形式	講義 実技		
講義概要			
<p>目的:スポーツレクリエーションの意義や本質を理解し、実技を通し健全な心身の発達及び体力の向上を図る。</p> <p>目標:1. 運動の意義や本質を理解する。 2. 健全な心身の発達と体力の向上を促進する。 3. 地域との交流を図り沖縄の文化を身につける。</p>			
講義計画			
1回目	人間の健康と運動		
2回目	スポーツレクリエーションの実際 バレーボール、バスケット、バトミントン		
3回目	バレーボール、バスケット、バトミントン		
4回目	バレーボール、バスケット、バトミントン		
5回目	バレーボール、バスケット、バトミントン		
6回目	バレーボール、バスケット、バトミントン		
7回目	バレーボール、バスケット、バトミントン		
8回目	バレーボール、バスケット、バトミントン		
9回目	バレーボール、バスケット、バトミントン		
10回目	バレーボール、バスケット、バトミントン		
11回目	バレーボール、バスケット、バトミントン		
12回目	バレーボール、バスケット、バトミントン		
13回目	バレーボール、バスケット、バトミントン		
14回目	ウォーキング		
15回目	ウォーキング		
16回目	ウォーキング		
17回目	ウォーキング		
18回目	体力測定・体力評価		
19回目	体力測定・体力評価		
20回目	体力測定・体力評価		
21回目	体力測定・体力評価		
22回目	沖縄の文化の実際		
23回目	沖縄の文化の実際		
評価方法			
実技内容、体験レポート			
参考書、テキスト、参考文献			

科目名	人間関係論	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	1単位(15時間)	担当教員	
授業形式	講義 演習		
講義概要			
<p>目的:日常生活において、円滑な人間関係を築くための方法を学ぶ。</p> <p>目標:1. 相手を理解するための自己理解の必要性を知る。</p> <p>2. 対人感情、印象形成のプロセスについて理解し、対人関係の本質について考える。</p> <p>3. 相手を受け入れ、相手の感情に寄り添う態度をとることができる。</p> <p>4. 自己表現法としてアサーション・スキルを身につける。</p> <p>5. 社会的役割と人間関係のあり方を考え、専門職業人としての態度を身につける。</p>			
講義計画			
1回目	人間関係論の基礎概念		
2回目	人間関係の発達と自我		
3回目	自己理解と他者理解		
4回目	人間関係と感情		
5回目	カードメツッドグループダイナミクス		
6回目	集団と個人		
7回目	健康な対人関係を生きる		
8回目	まとめ		
評価方法			
筆記テスト、授業態度、演習			
参考書、テキスト、参考文献			

科目名	形態機能論 I	開講時期	1 年次 前期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	医師
講義概要			
<p>目的: 人体の構造と機能の概要を学び、看護に必要な基礎的知識を習得する。</p> <p>目標: 1. 生命活動の概要と人体の特徴について理解する。 2. 人体の概要と解剖学用語について理解する。 3. 人体の構成と内部環境の恒常性について理解する。</p>			
講義計画			
1 回目	人体の特徴		
2 回目	人体の形成		
3 回目	人体の概要		
4 回目	解剖学用語		
5 回目	人体の構成		
6 回目	細胞		
7 回目	組織		
8 回目	器官系		
9 回目	ホメオスタシス		
10 回目	体液・血液		
11 回目	男性生殖器		
12 回目	女性生殖器		
13 回目	胎盤		
14 回目	胎児の発生		
15 回目	成長・老化		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
解剖生理学—人体の構造と機能(1) 医学書院 看護形態機能学 日本看護協会出版会			

科目名	形態機能論Ⅱ	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	2単位(45時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	医師
講義概要			
<p>目的: 恒常性維持のための調節機能、および「動く」「食べる」「排泄する」生活行動に関する人体の構造と機能を学び、看護に必要な基礎的知識を習得する。</p> <p>目標: 1. 恒常性維持のための調節機能(神経性調節、液性調節)を理解する。 2. 「動く」生活行動に関する筋・骨格器系の構造と機能を理解する。 3. 「食べる」生活行動に関する消化器系の構造と機能を理解する。 4. 「排泄する」生活行動に関する泌尿器系、下部消化管(大腸)の構造と機能を理解する。</p>			
講義計画			
1回目	神経系		
2回目	受容器		
3回目	感覚器		
4回目	大脳		
5回目	脊髄		
6回目	脳神経		
7回目	体性神経		
8回目	自律神経		
9回目	内分泌器		
10回目	ホルモン作用		
11回目	骨		
12回目	筋		
13回目	姿勢		
14回目	立位の保持		
15回目	歩く		
16回目	表情		
17回目	食作用		
18回目	嚥下		
19回目	消化		
20回目	吸収		
21回目	排尿		
22回目	排泄		
23回目	排便		
24回目	Ⅱ-1 テスト		
25回目	Ⅱ-2 テスト		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
解剖生理学—人体の構造と機能(1) 医学書院 看護形態機能学 日本看護協会出版会			

科目名	形態機能論Ⅲ	開講時期	1年次 後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	医師
講義概要			
<p>目的:「呼吸する」生活行動、および「恒常性維持のための物質の流通」に関する人体の構造と機能を学び、看護に必要な基礎的知識を習得する。</p> <p>目標:1. 「呼吸する」生活行動に関する呼吸器系の構造と機能を理解する。 2. 恒常性維持のための物質の流通に関する血液・造血器系、免疫系、循環器系の構造と機能を理解する。</p>			
講義計画			
1回目	呼 吸		
2回目	構 造		
3回目	呼吸運動の調節		
4回目	ガス交換		
5回目	血 液		
6回目	血 管		
7回目	心臓の構造		
8回目	刺激伝導系		
9回目	血 圧		
10回目	生体防御		
11回目	皮 膚		
12回目	免 疫		
13回目	代謝・運動		
14回目	体 温		
15回目	血液調節作用		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>解剖生理学—人体の構造と機能(1) 医学書院 看護形態機能学 日本看護協会出版会</p>			

科目名	病態学総論	開講時期	1年次 後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	医師
講義概要			
<p>目的: 人体の健康障害に関する病因と病変の特徴を理解し、看護に必要な基礎的知識を習得する。 目標: 1. 病因と病変の特徴について理解する。 2. 病理検査の方法について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	病理学で学ぶこと		
2回目	細胞組織の障害と修復		
3回目	循環障害		
4回目	循環障害		
5回目	炎症と免疫、移植と再生医療		
6回目	炎症と免疫、移植と再生医療		
7回目	代謝障害		
8回目	代謝障害		
9回目	腫瘍		
10回目	腫瘍		
11回目	感染症		
12回目	感染症		
13回目	感染症、先天異常		
14回目	先天異常		
15回目	テスト		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
系統看護学講座 専門基礎 「病理学」 医学書院 疾病からみた回復促進①			

科目名	疾病治療論 I	開講時期	1 年次 前期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	医師
授業形式	講義	実務経験	
講義概要			
<p>目的: 消化器系、泌尿器系疾患の病態・検査・治療について、看護に必要な基礎的知識を習得する</p> <p>目標: 1. 消化器系疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。 2. 泌尿器系疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。</p>			
講義計画			
1 回目	消化器疾患 総論		
2 回目	消化器疾患 総論 II		
3 回目	消化器疾患(上部消化管)		
4 回目	消化器疾患(上部消化管)		
5 回目	消化器疾患(肝胆嚢)		
6 回目	消化器疾患(腸・腹膜)		
7 回目	肝臓・膵臓		
8 回目	消化器外科		
9 回目	手 術		
10 回目	泌尿器科		
11 回目	泌尿器科		
12 回目	泌尿器科		
13 回目	泌尿器科		
14 回目	泌尿器科		
15 回目	テスト		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>系統看護学講座 専門Ⅱ「消化器」⑤ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ「腎・泌尿器」⑧ 医学書院</p>			

科目名	疾病治療論Ⅱ	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	医師
講義概要			
<p>目的:呼吸器系、循環器系の病態・検査・治療について、看護に必要な基礎的知識を習得する。 目標:1.呼吸器系疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。 2.循環器系疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	呼吸器機能障害の症状と発現機序		
2回目	呼吸器機能障害の症状と発現機序		
3回目	診断・検査		
4回目	診断・検査		
5回目	主な疾患 気管支の疾患、肺の疾患、縦隔の疾患、外傷		
6回目	主な疾患 気管支の疾患、肺の疾患、縦隔の疾患、外傷		
7回目	治療		
8回目	循環機能障害の症状と発現機序		
9回目	循環機能障害の症状と発現機序		
10回目	診断・検査		
11回目	診断・検査		
12回目	主な疾患 後天性心疾患 血管の異常 血圧の異常 不整脈 先天性疾患		
13回目	主な疾患 後天性心疾患 血管の異常 血圧の異常 不整脈 先天性疾患		
14回目	主な疾患 後天性心疾患 血管の異常 血圧の異常 不整脈 先天性疾患		
15回目	治療		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
系統看護学講座 専門Ⅱ「呼吸器」② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ「循環器」③ 医学書院			

科目名	疾病治療論Ⅲ	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	医師
講義概要			
<p>目的: 血液・造血器系、免疫系疾患、小児の主な疾患の病態・検査・治療について、看護に必要な基礎的知識を習得する。</p> <p>目標: 1. 血液・造血器系疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。 2. 免疫系疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。 3. 小児の主な疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	血液・造血機能障害の症状と発現機序		
2回目	血液・造血機能障害の症状と発現機序		
3回目	診断・検査 主な疾患 貧血、白血病 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫		
4回目	特発性血小板減少性紫斑病 血小板減少症 血友病 DIC		
5回目	免疫機能障害の症状と発現機序		
6回目	診断・検査		
7回目	主な疾患 自己免疫疾患 過敏症		
8回目	治療		
9回目	小児の主な疾患 診断 検査 消化器疾患		
10回目	呼吸器疾患、免疫・アレルギー疾患		
11回目	循環器疾患		
12回目	血液疾患・悪性新生物		
13回目	腎・泌尿器・生殖器疾患		
14回目	内分泌疾患		
15回目	神経・筋疾患		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
系統看護学講座 専門Ⅱ「血液・造血器」④ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ「アレルギー・膠原病・感染症」⑪ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ「小児臨床看護各論」① 医学書院			

科目名	疾病治療論Ⅳ	開講時期	2年次 前・後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	医師
講義概要			
<p>目的：脳・神経系、内分泌系疾患の病態・検査・治療について、看護に必要な基礎的知識を習得する。 目標：1. 神経系疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。 2. 内分泌系疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	神経障害の症状と発現機序		
2回目	神経障害の症状と発現機序		
3回目	診断・検査		
4回目	診断・検査		
5回目	主な疾患 脳血管障害 脳の腫瘍 脳の外傷 水頭症		
6回目	神経伝達の障害 髄膜炎 脊髄の疾患 末梢神経疾患 アルツハイマー病		
7回目	治療 手術療法 放射線療法		
8回目	薬物療法 化学療法		
9回目	内分泌機能障害の症状と発現機序		
10回目	内分泌機能障害の症状と発現機序		
11回目	診断・検査		
12回目	主な疾患 下垂体前葉の疾患 下垂体後葉の疾患 甲状腺疾患		
13回目	副甲状腺の疾患 副腎皮質の疾患 糖尿病 痛風		
14回目	治療 薬物療法 手術療法 運動療法		
15回目	治療 薬物療法 手術療法 運動療法		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
系統看護学講座 専門Ⅱ「脳・神経」 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ「内分泌・代謝」⑥ 医学書院			

科目名	疾病治療論Ⅴ	開講時期	2年次 前・後期
単位数(時間数)	2単位(45時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	医師
講義概要			
<p>目的:運動器系、感覚器系、生殖器系疾患の病態・検査・治療について、看護に必要な基礎的知識を習得する。</p> <p>目標:1. 運動器系疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。 2. 感覚器系疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。 3. 生殖器系疾患の病態・診断・検査・治療について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	【運動器系疾患】 運動機能障害の症状と発現機序		
2回目	診断・検査		
3回目	主な疾患 先天性疾患 骨折 脱臼 捻挫・打撲 炎症性疾患 骨腫瘍		
4回目	骨粗しょう症 代謝性骨疾患 上肢・下肢の疾患 筋・腱の疾患 麻痺性疾患		
5回目	治療 手術療法 安静療法 牽引療法 運動療法		
6回目	【皮膚疾患】 皮膚の構造と機能		
7回目	皮膚機能障害の症状と発現機序 診断・検査		
8回目	主な疾患・治療		
9回目	【眼疾患】 眼の構造と機能		
10回目	視機能障害の症状と発現機序		
11回目	診断・検査・主な疾患		
12回目	【耳・鼻・咽頭・喉頭疾患】 耳・鼻・咽頭・喉頭の構造 障害時の症状と発現機序		
13回目	診断・検査 主な疾患		
14回目	治療		
15回目	【口腔疾患】 口腔の構造と機能		
16回目	障害時の症状と発現機序 診断・検査		
17回目	主な疾患 治療		
18回目	【男性生殖器疾患】 障害時の症状と発現機序		
19回目	診断・検査		
20回目	主な疾患 治療		

21 回目	【女性生殖器疾患】障害時の症状と発現機序
22 回目	診断・検査
23 回目	主な疾患 治療
評価方法	
筆記テスト	
参考書、テキスト、参考文献	
系統看護学講座	専門Ⅱ「運動器」⑩ 医学書院
系統看護学講座	専門Ⅱ「皮膚」② 医学書院
系統看護学講座	専門Ⅱ「眼」⑬ 医学書院
系統看護学講座	専門Ⅱ「耳鼻咽喉科」⑭ 医学書院
系統看護学講座	専門Ⅱ「歯・口腔」⑮ 医学書院
系統看護学講座	専門Ⅱ「腎・泌尿器」⑧ 医学書院
系統看護学講座	専門Ⅱ「女性生殖器」⑨ 医学書院

科目名	微生物学	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的:病原微生物の分類や特徴・消毒法・検査法・感染症の変化などについてミクロ的見地で理解し、人間と微生物の関わりを学ぶ。</p> <p>目標:微生物の特徴と生体に及ぼす影響を知り、その対応について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	「感染・発症」「病原微生物・常在菌」		
2回目	「感染症サーベイランス」「結核」		
3回目	「化学療法」「耐性菌」		
4回目	「院内感染」		
5回目	「滅菌と消毒」「感染性医療廃棄物」		
6回目	ヒトの内部防衛機構		
7回目	能動免疫と受動免疫、アレルギー		
8回目	形態と組成、環境		
9回目	球 菌		
10回目	桿 菌		
11回目	グラム陽性桿菌、マイコプラズマ属、スピロヘータ		
12回目	嫌気性菌、クラミジア、・菌		
13回目	ウイルス①		
14回目	ウイルス②		
15回目	ウイルス③		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>系統看護学講座 専門基礎6「微生物学」 医学書院</p>			

科目名	生化学	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的: 人間の生理現象全体を科学的に判断する能力を養う。</p> <p>目標: 1. 人体の構成成分である化学物質の性状とその分布およびその代謝について理解する。 2. 人体の物質代謝と臨床検査の意義を理解する。</p>			
講義計画			
1回目	生体分子・細胞・糖質		
2回目	資質・たんぱく質		
3回目	タンパク質・核酸		
4回目	核酸・酵素		
5回目	酵素・代謝		
6回目	糖代謝		
7回目	資質代謝		
8回目	アミノ酸代謝		
9回目	遺伝情報		
10回目	遺伝情報2		
11回目	遺伝情報3		
12回目	ビタミン		
13回目	ホルモン		
14回目	まとめ ビリルビン代謝		
15回目	まとめ		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>系統看護学講座 専門基礎2 「生化学」 医学書院</p>			

科目名	代謝栄養学	開講時期	1年次 後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的: 人間にとっての食の意義、健康を維持するための栄養について理解を深め、健康障害に応じた食事療法の基本を学ぶ。</p> <p>目標: 1. 人間にとっての栄養の意義を理解する。 2. 臨床栄養の基本について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	第1章 人間栄養学と看護 ～食事における看護師の役割～		
2回目	～食事における看護師の役割～、第2章 ビタミンD		
3回目	ビタミンD、フッ素		
4回目	食物繊維、第3章 血漿中のアミノ酸・タンパク質		
5回目	栄養の代謝、そのほかの排泄		
6回目	第4章 食品のエネルギー ～酸素摂取量～		
7回目	第5章 食事と食品 ～保健機能食品、特別用途食品		
8回目	食品群とその分類法 ～多様な専門職による栄養ケア		
9回目	栄養ケア計画の実施とその確認、身体計測値の評価		
10回目	タンパク質に関する項目、幼児期の特徴と栄養摂取の要点		
11回目	幼児期の栄養ケア・マネジメントの要点、更年期の栄養ケア・マネジメントの要点		
12回目	更年期の栄養ケア・マネジメントの要点、食事の実際		
13回目	チームで取り組む栄養管理、経腸栄養の合併性		
14回目	静脈栄養、糖尿病		
15回目	脂質異常症		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
系統看護学講座 専門基礎3「栄養学」 医学書院			

科目名	薬理学	開講時期	1年次 後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的:薬物の生理学的な効果と作用、薬物の性質についての基礎知識を学ぶ。 目標:1.薬物の特徴・作用機序・人体への影響について理解する。 2.医療安全の視点から薬物の取り扱いを理解する。</p>			
講義計画			
1回目	イントロダクション		
2回目	薬の名前(総論①)		
3回目	薬物病態(1)(総論②)		
4回目	薬物病態(2)(総論③)		
5回目	薬の効き方		
6回目	薬物相互作用		
7回目	消化器系の薬		
8回目	消化器系の薬・循環器系の薬		
9回目	循環器系の薬		
10回目	呼吸器系の薬		
11回目	呼吸器系の薬、糖尿病		
12回目	糖尿病		
13回目	中枢神経系、自律神経系		
14回目	感染症治療薬		
15回目	感染症		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>系統看護学講座 専門基礎3「薬理学」 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院</p>			

科目名	生命倫理学	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的:医療の現状と課題を学び生命の尊厳について考え、医療者としてのあり方を認識する。 目標:1. 医療の歩みと医療観の変遷について理解する。 2. 人間の生命について考え、自己の生命観・倫理観を育む。 3. 医療者として生命へのアプローチについて理解する。</p>			
講義計画			
1回目	リスクと誘惑、危険と可能性、帰結主義の道德論、功利主義ベンザム		
2回目	帰結主義者の道德論		
3回目	功利主義の問題点、費用便益分析		
4回目	代理母 ベイビーM 事件		
5回目	アイランド DVD:臓器移植 代理母クローン		
6回目	アイランド DVD ハロウィーンとは		
7回目	安楽死、自殺 高瀬舟		
8回目	優生保護法		
9回目	愛楽園訪問討論、帰る命／買えない命 DVD		
10回目	愛楽園訪問		
11回目	愛楽園訪問		
12回目	遺伝子工学		
13回目	カント自由とは		
14回目	優生保護法 まとめ DVD		
15回目	テスト		
評価方法			
筆記テスト、レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>現代医療論 新体系看護学12 メヂカルフレンド 看護倫理 南江堂</p>			

科目名	人間と環境の科学	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的:人間生活における健康と環境の関わりについて学び、健康阻害の要因となる環境の是正に関心を持ち、専門分野と関連づけて考える。</p> <p>目標:1. 環境問題に関する関係法規について学ぶ。 2. 環境が人間の健康生活に及ぼす影響について理解する。 3. 環境保健について学び、環境汚染の現状を理解する。 4. 環境保全のための課題について考える。</p>			
講義計画			
1回目	オリエンテーション		
2回目	地球の歴史		
3回目	脊椎動物の歴史		
4回目	岩石の話		
5回目	島の成り立ち		
6回目	気候、天気の話		
7回目	海流の話		
8回目	生物相の話		
9回目	生物毒の話		
10回目	まとめ		
11回目	放射線被ばく		
12回目	放射線被ばく		
13回目	食品衛生と食中毒		
14回目	感染症の広がりと予防		
15回目	感染症の広がりと予防		
評価方法			
筆記テスト、レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
齋藤 和雄他著 「新しい環境衛生」改訂第6版 南江堂			

科目名	社会福祉論 I	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的:社会福祉に対する基本的な考え方を理解し、保健医療福祉の連携について学ぶ。</p> <p>目標:1. 社会福祉の概要について学び、看護との関連性について理解する。</p> <p>2. 各種の社会福祉の特徴について学び、対象に応じた社会資源の活用ができ</p>			
講義計画			
1 回目	英米日の社会福祉の歴史		
2 回目	現代社会と社会保障		
3 回目	医療・公衆衛生		
4 回目	医療保険		
5 回目	年金・労災雇用保険		
6 回目	介護保険		
7 回目	社会福祉の理念、概念		
8 回目	社会福祉の法制、財政、組織		
9 回目	患者の心理、社会的問題		
10 回目	ソーシャルワークとは		
11 回目	医療ソーシャルワーク		
12 回目	面接技法		
13 回目	医療スタッフに求めているもの		
14 回目	初期介入と介護サービスの必要		
15 回目	まとめ		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
社会福祉 系看 専門基礎3 医学書院			

科目名	社会福祉論Ⅱ	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	1単位(15時間)	担当教員	
授業形式	講義		
講義概要			
<p>目的:社会福祉の課題を理解し、ボランティア活動の実践を通して社会的な連携について学び、対象を多面的に理解する能力を養う。</p> <p>目標:1. 社会の変化に応じた社会福祉の課題について理解する。 2. ボランティア活動に参加し、対象を理解するとともに、活動の課題を考える。</p>			
講義計画			
1回目	医療と福祉の関連	医療における福祉活動の必要性	
2回目		医療ソーシャルワーカーの役割	セルフヘルプグループと医療
3回目	社会福祉と看護		
4回目	社会福祉と看護		
5回目	ボランティアの概念、意義		
6回目	地域におけるボランティア活動の実際		
7回目	地域におけるボランティア活動の実際		
8回目	地域におけるボランティア活動の実際		
評価方法			
筆記テスト、ボランティア活動レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
社会福祉 系看 専門基礎3 医学書院			

科目名	保健医療論	開講時期	1年次 後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	医師
講義概要			
<p>目的:保健医療を支える制度の概要を理解し、個人の健康生活について考える。</p> <p>目標:1. 各種の人口統計について学び、集団の健康問題を分析することができる。</p> <p>2. 保健医療を支える制度の仕組み・成り立ちについて学び、ライフサイクルにおける具体的な予防対策の実践活動について学ぶ。</p> <p>3. 日常生活が健康に及ぼす影響について学ぶ。</p> <p>4. ヘルスプロモーションの実際について学び、地域保健における看護の役割を理解する。</p>			
講義計画			
1回目	公衆衛生と健康の概念		
2回目	健康とは		
3回目	わが国における国民健康づくり		
4回目	保健統計(社会環境の変動)		
5回目	母子保健		
6回目	生活習慣病		
7回目	高齢者保健		
8回目	精神保健		
9回目	感染症の予防と対策		
10回目	地域保健、健康増進		
11回目	年齢別健康		
12回目	健康づくりの概要		
13回目	生活と健康		
14回目	心理、精神的要因		
15回目	こころの健康		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
国民衛生の動向 厚生統計協会 編集・発行			

科目名	関係法規	開講時期	3年次 前期
単位数(時間数)	1単位(15時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	医師
講義概要			
<p>目的:看護をより広い視野で捉え、保健医療福祉活動を展開するための法的根拠を理解する。</p> <p>目標:1. 社会生活と法律の関係が理解できる。 2. 保健対策に関する法規の目的・理念・責務・用語の定義を理解する。 3. 看護業務に関連する各種の法律について理解できる。</p>			
講義計画			
1回目	法規の概念		
2回目	保健衛生法規 地域保健法 母子保健法		
3回目	保健衛生法規 高齢者の医療の確保に関する法律 学校保健安全法		
4回目	医事法規 医療法 医師法		
5回目	看護と法律 看護職の役割と責務 保健師助産師看護師法		
6回目	看護と法律 看護職の養成		
7回目	看護と法律 看護職員の需給対策と看護の質の保証		
8回目	労働関係法規 労働基準法 労働安全衛生法		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
ナーシンググラフィカ 看護をめぐる法と制度			

科目名	基礎看護学概論1	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的:看護の基本となる概念を学び、対象のQOLを支援するための看護の役割を理解する。</p> <p>目標:1. 看護の変遷と目的を学び、看護の基本となる概念を理解する。</p> <p>2. ライフサイクルにおける健康の意義について学び、健康の概念を理解する。</p> <p>3. 生活者としての人間の特徴を学び、看護の対象である人間を統合的に理解する。</p> <p>4. 看護の機能と役割を学び、保健医療福祉チームと看護の関わりについて理解する。</p> <p>5. 職業倫理を明確にし、患者の権利擁護について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	授業ガイダンス、看護学概論		
2回目	協同学習とは 看護ケアの本質		
3回目	看護の歴史と看護教育制度		
4回目	看護の仕事 DVD鑑賞 看護と看護師		
5回目	看護理論とは		
6回目	看護理論の歴史		
7回目	日本看護協会「忘れられない看護エピソード」		
8回目	日本の医療制度		
9回目	協同学習 看護の日とは		
10回目	協同学習 発表会		
11回目	看護における倫理		
12回目	インフォームドコンセント		
13回目	国民の健康、生活の全体像の把握		
14回目	保助看法について、看護者の倫理綱領		
15回目	保助看法について、看護者の倫理綱領		
評価方法			
筆記テスト、課題レポート、グループワーク参加状況			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>基礎看護学[1]「看護学概論」医学書院,2017</p> <p>F. ナイナゲル著,湯槇ます他訳,「看護覚え書き」現代社,1968.</p> <p>V. ベンダーツ著,湯槇ます訳「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会,1973.</p> <p>新版 看護者の基本的責務 日本看護協会出版会、2006</p>			

科目名	基礎看護学概論2	開講時期	1年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：先人の看護論を学び、自己の看護観を深め、看護における研究の基礎を学ぶ。 目標：1. 討議のルールをふまえ、主体的に思考し、表現する力を身につける。 2. 先人の看護論を学び、看護の本質と歴史的変遷を理解する。 3. 看護理論を構成する要素を理解する。 4. 看護における研究の意義と必要性を理解する。 5. 研究の種類と研究のプロセスを理解する。 6. 文献検索と文献の活用方法を理解する。</p>			
講義計画			
1回目	看護セミナー		
2回目	看護セミナー「人間」「環境」		
3回目	看護セミナー「健康」「看護」		
4回目	看護セミナー「メタパラダイムを関連づける」		
5回目	看護セミナー グループワーク		
6回目	看護セミナー グループワーク		
7回目	看護理論		
8回目	看護理論		
9回目	セミナー発表会		
10回目	セミナー発表会		
11回目	看護研究(1)		
12回目	看護研究(2)倫理的配慮		
13回目	看護研究(3)文献検索		
14回目	看護研究(4)計画書作成		
15回目	テスト		
評価方法			
グループワークの参加状況 発表会 課題レポート 文献カード			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>基礎看護学[1]「看護学概論」医学書院, 2017 学生問題研究会編,「討議の手引き」民主教育協会, 1961. F. ナインゲール,「看護覚え書」湯楨ます他訳, 現代社,1968. V.ヘンダーソン,「看護の基本となるもの」湯楨ます他訳, 日本看護協会, 1973. 黒田裕子著「黒田裕子の看護研究 Step by Step」医学書院, 2014 高橋百合子著,「看護学生のためのケーススタディ」メガフレッド社, 2011</p>			

科目名	基礎看護学技術論 1	開講時期	1 年次 前期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義 演習	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的: 看護技術の意義を理解し、看護行為に共通する基本技術を習得する。</p> <p>目標: 1. 看護技術の概念を理解する。 2. 医療における安全・安楽の重要性を認識し、安全・安楽を守るための基本技術を身につける。 3. コミュニケーション・カウンセリングの基礎知識を理解し、看護に活用する技術を身につける。</p>			
講義計画			
1 回目	看護技術とは		
2 回目	安楽とは		
3 回目	安全とは		
4 回目	感染とその予防		
5 回目	会話ロールプレイ		
6 回目	コミュニケーションの構成要素、言語的・非言語的コミュニケーション		
7 回目	看護におけるコミュニケーション		
8 回目	コミュニケーション障害への対応		
9 回目	プロセスレコード		
10 回目	安楽、体位、ボディメカニクス		
11 回目	手洗い、ガウンテクニック、無菌操作デモ		
12 回目	技術演習		
13 回目	安楽の技術、リラクゼーション		
14 回目	実技テスト		
15 回目	テスト		
評価方法			
筆記テスト、技術テスト、演習レポート			

参考書、テキスト、参考文献

基礎看護学[1]「看護学概論」医学書院, 2017

基礎看護学[2]「基礎看護技術Ⅰ」医学書院, 2017

基礎看護学[3]「基礎看護技術Ⅱ」医学書院, 2017

「人は誰でも間違える—より安全な医療システムを目指して」米国医療の質委員会 医学研究所著,
医学ジャーナリスト協会翻訳

「医療安全ワークブック」、川村治子, 医学書院, 2008

写真でわかる基礎看護技術②, 村上美好監修, インターメディカ, 2008.

D.オレム「オレム看護論」小野寺杜紀訳, 医学書院, 1994.

J.トラベルビー「人間対人間の看護」長谷川浩他訳, 医学書院, 1996.

H・E・ペプロウ「人間関係の看護論」稲田八重子他訳, 医学書院, 1973. 等

I.J.オランダ「ダイナミックな看護婦—患者関係」, メガカルフレンド社, 1961.

科目名	基礎看護学技術論 2	開講時期	1 年次 前期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義 演習	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的: 対象の基本的ニーズを充足するための日常生活の援助技術を習得する。 目標: 1. 生活の場として環境を整えることの意義を理解し対象に適した援助技術を身につける。 2. 人間にとって食事の意義を理解し、対象に適した援助技術を身につける。 3. 人間の生体リズムとしての活動・休息の意義を理解し、対象に適した援助技術を身につける。</p>			
講義計画			
1 回目	環境を考える(環境①)		
2 回目	療養者の環境を整える技術(環境②)		
3 回目	療養者の環境を整える技術(デモンストレーション)		
4 回目	療養者の環境を整える技術(デモンストレーション)		
5 回目	療養者の環境を整える技術(運動・休息)		
6 回目	食事の意義、経口摂取		
7 回目	非経口摂取時の看護		
8 回目	食事介助演習()		
9 回目	食事介助演習()		
10 回目	活動、休息・睡眠の援助技術		
11 回目	活動、休息・睡眠の援助技術		
12 回目	活動、休息・睡眠の援助技術		
13 回目	活動、休息・睡眠の援助技術		
14 回目	病院食の特殊性		
15 回目	活動、休息、環境技術(実技試験)		
評価方法			
筆記テスト、技術テスト、演習レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>基礎看護学 [1] 「看護学概論」 医学書院, 2017 基礎看護学 [2] 「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院, 2017 看護技術プラクティス, 竹尾恵子監修, Gakken, 2009. 看護技術ブック, 藤野彰子他監修, 医学芸術社, 2011. 写真でわかる実習で使える看護技術, 吉田みつ子, インターメディア, 2010. F. ナイナゲル, 「看護覚え書」湯植ます他訳, 現代社, 1968. V. ハンダーソン, 「看護の基本となるもの」湯植ます他訳, 日本看護協会, 1973.</p>			

科目名	基礎看護学技術論 3	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義 演習	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的: 対象の基本的ニーズを充足するための日常生活の援助技術を習得する。</p> <p>目標: 1. 快適な生活を送るための清潔の意義を理解し、対象に適した援助技術を身につける。</p> <p>2. 排泄の意義を理解し、対象に適した援助技術を身につける。</p>			
講義計画			
1 回目	清潔の意義		
2 回目	更衣		
3 回目	口腔ケア		
4 回目	洗髪		
5 回目	足浴		
6 回目	排泄の機序		
7 回目	全身清拭		
8 回目	全身清拭		
9 回目	部分浴まとめ		
10 回目	排泄のアセスメント		
11 回目	排泄の援助、褥瘡予防		
12 回目	陰部洗浄、便器挿入 デモストレーション		
13 回目	陰部洗浄 演習		
14 回目	実技テスト		
15 回目	筆記テスト		
評価方法			
筆記テスト、技術テスト、演習レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>基礎看護学 [1]「看護学概論」 医学書院,2017 基礎看護学[2]「基礎看護技術Ⅱ」医学書院,2017 写真でわかる実習で使える看護技術,吉田みつ子,インターメディカ,2010. 看護技術プラクティス,竹尾恵子監修,G akken,2009. 看護技術ベーシック,藤野彰子他監修,医学芸術社,2011. F. ナイTINGェール,「看護覚え書」湯積ま す他訳,現代社,1968. V.ヘンダーソン,「看護の基本となるもの」湯積ます他訳,日本看護協会,1973.</p>			

講義名	基礎看護学技術論 4	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
講義形式	講義 演習	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的: 対象をアセスメントするための基礎的能力を養い、救急時に必要な援助技術を習得する。</p> <p>目標: 1.ヘルスアセスメントの意義を理解する 2.フィジカルアセスメントの方法を理解し、バイタルサイン測定 of 技術を身につける。 3.一時的救命処置(BLS)の技術を身につける。</p>			
講義計画			
1 回目	バイタルサインとは		
2 回目	脈拍、血圧とは		
3 回目	呼吸・体温とは		
4 回目	バイタルサイン デモテスト		
5 回目	身体計測、演習		
6 回目	身体計測、演習		
7 回目	バイタルサイン演習		
8 回目	バイタルサイン演習		
9 回目	救急救命技術		
10 回目	救急救命技術(BLS、トリアージ)		
11 回目	救急救命技術		
12 回目	バイタルサインの変動因子 まとめ		
13 回目	救急救命技術		
14 回目	救急救命技術		
15 回目	技術テスト、筆記テスト		
評価方法			
筆記テスト、技術テスト、演習レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>基礎看護学[2]「基礎看護技術Ⅰ」医学書院, 2017 基礎看護学[3]「基礎看護技術Ⅱ」医学書院, 2017 横山美樹, はじめてのフィジカルアセスメント、メディカルブックス社, 2009 山内豊明, フィジカルアセスメントガイドブック、医学書院, 2011</p>			

講義名	基礎看護学技術論 5	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
講義形式	講義 演習	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的:対象の診療に伴う看護の役割を理解し、検査・処置・主な症状に応じた援助方法の基礎を習得する。</p> <p>目標:1. 診察・検査時の看護の役割を理解し、基本的な診療の補助技術を身につける。</p> <p>2. 主な症状・治療・処置に伴う苦痛を軽減するための、援助の方法と使用される医療機器の種類と取り扱いの原則を身につける。</p>			
講義計画			
1 回目	診療と看護		
2 回目	検査見学1h+発表会1h		
3 回目	医療処置①		
4 回目	医療処置②		
5 回目	呼 吸		
6 回目	循環①		
7 回目	循環②		
8 回目	体 温①		
9 回目	吸入・吸引演習		
10 回目	吸入・吸引演習		
11 回目	褥法演習(体温②)		
12 回目	尿検査		
13 回目	採血デモスト		
14 回目	採血演習		
15 回目	採血演習		
評価方法			
筆記テスト、技術テスト、演習レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>基礎看護学[3]「基礎看護技術Ⅱ」医学書院,2017</p> <p>写真でわかる基礎看護技術①,村上美好監修,インターメディカ,2008.</p> <p>看護技術プラクティス,竹尾恵子監修,Gakken,2009.</p> <p>看護技術ベーシック,藤野彰子他監修,医学芸術社,2011.</p>			

講義名	基礎看護学技術論 6	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
講義形式	講義 演習	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的: 対象の治療に伴う看護の役割を理解し、薬物・輸血・放射線療法における援助方法の基礎を習得する。</p> <p>目標: 1. 与薬の目的を理解し、対象の状況に応じた安全な与薬の技術を身につける。 2. 輸血療法の目的と援助技術を理解する。 3. 放射線療法の目的と援助技術を理解する。</p>			
講義計画			
1 回目	薬物療法①		
2 回目	薬物療法②		
3 回目	薬物療法③		
4 回目	皮下注射		
5 回目	筋肉注射		
6 回目	輸 血		
7 回目	放射線療法を受ける対象者への看護		
8 回目	放射線療法を受ける対象者への看護		
9 回目	点滴デモスト		
10 回目	経口与薬デモスト		
11 回目	点滴演習		
12 回目	点滴演習		
13 回目	経口演習		
14 回目	経口演習		
15 回目	実技試験、筆記試験		
評価方法			
筆記テスト、技術テスト、演習レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>基礎看護学[3]「基礎看護技術Ⅱ」医学書院, 2017 写真でわかる基礎看護技術②, 村上美好監修, インターメディカ, 2008. 「医療安全ワークブック」、川村治子、医学書院、2013</p>			

講義名	基礎看護学方法論 1	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
講義形式	講義 演習	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：看護過程の概念を理解し、健康問題解決への思考プロセスを身につける。</p> <p>目標：1. 看護過程の概念を理解する。 2. 問題解決のための方法を理解する。 3. 看護過程の構成要素にそって、紙上事例の看護計画を立案する。 4. 看護における記録・報告の意義と方法を理解する。</p>			
講義計画			
1 回目	看護過程とは		
2 回目	情報収集とは		
3 回目	アセスメントとは		
4 回目	アセスメント グループワーク		
5 回目	アセスメント解説、情報関連図		
6 回目	看護問題とは		
7 回目	情報関連図、優先順位		
8 回目	看護記録とは グループワーク		
9 回目	行動計画の実施 グループワーク		
10 回目	看護計画		
11 回目	計画立案 グループワーク		
12 回目	計画について解説、実施記録		
13 回目	実施記録 グループワーク		
14 回目	実施記録、解説、「評価」「要約」		
15 回目	小テスト、まとめ		
評価方法			
筆記テスト、技術テスト、演習レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>基礎看護学[2]「基礎看護技術 I」医学書院, 2017</p> <p>高木永子監修：New 看護過程に沿った対症看護, 学研, 2006.</p> <p>V. ヘンダーソン著, 湯槇ます訳「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会, 1973.</p>			

講義名	基礎看護学方法論 2	開講時期	2 年次 前期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
講義形式	講義 演習	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的:ヘルスアセスメントするための技術を習得する。 目標: 1.系統的フィジカルアセスメントの技術を身につける。 2.心理社会的アセスメントの技術を身につける。</p>			
講義計画			
1 回目	全身状態の観察		
2 回目	基本的な全身の見方		
3 回目	系統的フィジカルアセスメント		
4 回目	呼吸器系のアセスメント		
5 回目	呼吸器系のアセスメント		
6 回目	循環器系のアセスメント		
7 回目	循環器系のアセスメント		
8 回目	消化器系のアセスメント		
9 回目	消化器系のアセスメント		
10 回目	運動器系のアセスメント		
11 回目	運動器系のアセスメント		
12 回目	神経系のアセスメント		
13 回目	演習		
14 回目	演習		
15 回目	心理社会的側面の観察		
評価方法			
筆記テスト、技術テスト、演習レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>基礎看護学[2]「基礎看護技術 I」医学書院, 2017 横山美樹, はじめてのフィジカルアセスメント、メヂカルフレンド社, 2009. 山内豊明, フィジカルアセスメントガイドブック、医学書院, 2004.</p>			

実習名	基礎看護学実習 I	実施時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(45 時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：病院における患者の療養環境と看護の実際を見学し、看護の方法を習得する。</p> <p>目標：1. 良い人間関係を保つための、コミュニケーション技術を習得する。 2. 対象理解のための方法を知り、日常生活援助技術を習得する。 3. 対象を取り巻く療養環境を知る。 4. 目標達成に向けて、主体的に行動する。</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	6 日間 (1 日 7.5 時間)		
実習方法	学生は 1 グループ 7 名前後で編成し、入院患者を受け持ち対象とし、看護の実践を通して学習する。		
実習内容	<p>初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。</p> <p>実習内容と方法の詳細については、「基礎看護学実習要項」を参照。</p> <p>臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。</p> <p>実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。</p>		
評価方法			
<p>1. 実習態度</p> <p>2. 実習記録物、実習課題レポート</p>			

実習名	基礎看護学実習Ⅱ	実施時期	2年次 前期
単位数(時間数)	2単位(90時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：健康障害のある対象を理解し、日常生活の援助を通して看護過程の基礎を習得する。</p> <p>目標：1. 健康障害のある人を理解し、対象とよりよいコミュニケーションを保つことができる。</p> <p>2. 健康障害のある対象への援助の必要性を知り、基礎看護技術を用いて日常生活の援助が出来る。</p> <p>3. 医療チームにおける看護の役割を知る。</p> <p>4. 目標達成に向けて、主体的に学習に取り組む姿勢を身につける。</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	12日間（1日7.5時間）		
実習方法	学生は1グループ7名前後で編成し、入院および外来に通院する患者を対象とし、看護の実践を通して学習する。		
実習内容	<p>初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。</p> <p>実習内容と方法の詳細については、「基礎看護学実習要項」を参照。</p> <p>臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。</p> <p>実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。</p>		
評価方法			
<p>1. 実習態度</p> <p>2. 実習記録物、実習課題レポート</p>			

科目名	成人看護学 I	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：成人看護の対象への理解を深め、成長発達、保健行動、健康問題における看護の役割を理解する。</p> <p>目標：1. 成人期の特徴を通して、成人看護の概念を理解する。</p> <p>2. 成人の特徴を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、生涯発達の視点から理解する。</p> <p>3. 成人の健康と健康問題への援助について理解する。</p> <p>4. 成人の健康保持・増進の支援について理解する。</p>			
講義計画			
1 回目	成人看護学の概念・対象		
2 回目	成人看護学の概念・対象		
3 回目	成人の生活と健康		
4 回目	成人の生活と健康		
5 回目	成人看護のアプローチの基本 成人の看護の実践を支える理論		
6 回目	成人看護の健康課題をもつ患者の看護 健康の保持増進を支える看護		
7 回目	成人看護の健康課題をもつ患者の看護 健康の保持増進を支える看護		
8 回目	成人看護の健康課題をもつ患者の看護 健康の保持増進を支える看護		
9 回目	生命危機状況にある対象の看護		
10 回目	日常生活行動に障害のある対象の看護		
11 回目	セルフケアを再獲得する過程にある対象の看護		
12 回目	セルフケアを再獲得する過程にある対象の看護		
13 回目	人生の終末を迎える過程にある対象の看護		
14 回目	人生の終末を迎える過程にある対象の看護		
15 回目	まとめ		
評価方法			
レポート、筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>医学書院 成人看護学総論①、国民衛生の動向 「生涯発達の心理学」 「生涯人間発達論」</p> <p>メヂカルフレンド社「中範囲理論」 「ハイパーの発達課題と教育」 「セクシュアリティの看護」</p> <p>「死ぬ瞬間」「高齢者ケアの質を高める ICF を活かしたケアプロセス」「よくする介護を実践するための ICF の理解と活用」 「突然の死とグリーフケア」「公衆衛生がみえる」「リハビリテーション看護」</p>			

科目名	成人看護学Ⅱ方法論1	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	2単位(60時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：生命の危機状態にある対象の特徴を基盤に、機能障害をもつ対象への看護の役割と方法を理解する。</p> <p>目標：1.呼吸機能障害をもつ対象の問題と特徴をふまえ、症状、検査、治療に応じた看護の方法を学ぶ。 2. 循環機能障害をもつ対象の問題と特徴をふまえ、症状、検査、治療に応じた看護の方法を学ぶ。 3. 消化・吸収障害をもつ対象の問題と特徴をふまえ、症状、検査、治療に応じた看護の方法を学ぶ。 4. 排泄機能障害をもつ対象の問題と特徴をふまえ、症状、検査、治療に応じた看護の方法を学ぶ。</p>			
講義計画			
1回目	呼吸機能障害をもつ対象の看護		
2回目	呼吸機能障害をもつ対象の看護		
3回目	呼吸機能障害をもつ対象の看護		
4回目	呼吸機能障害をもつ対象の看護		
5回目	呼吸機能障害をもつ対象の看護		
6回目	呼吸機能障害をもつ対象の看護		
7回目	循環機能障害をもつ対象の看護		
8回目	循環機能障害をもつ対象の看護		
9回目	循環機能障害をもつ対象の看護		
10回目	循環機能障害をもつ対象の看護		
11回目	循環機能障害をもつ対象の看護		
12回目	循環機能障害をもつ対象の看護		
13回目	循環機能障害をもつ対象の看護		
14回目	循環機能障害をもつ対象の看護		
15回目	消化・吸収機能障害をもつ対象の看護		
16回目	消化・吸収機能障害をもつ対象の看護		
17回目	消化・吸収機能障害をもつ対象の看護		
18回目	消化・吸収機能障害をもつ対象の看護		
19回目	消化・吸収機能障害をもつ対象の看護		

20 回目	消化・吸収機能障害をもつ対象の看護
21 回目	消化・吸収機能障害をもつ対象の看護
22 回目	消化・吸収機能障害をもつ対象の看護
23 回目	消化・吸収機能障害をもつ対象の看護
24 回目	消化・吸収機能障害をもつ対象の看護
25 回目	消化・吸収機能障害を持つ対象の看護
26 回目	循環器障害の看護
27 回目	循環器障害の看護
28 回目	循環器障害の看護
29 回目	循環器障害の看護
30 回目	まとめ
評価方法	
レポート、筆記テスト	
参考書、テキスト、参考文献	
医学書院成人看護学 呼吸器② 循環器③ 消化器⑤ 腎・泌尿器⑧ 医学書院臨床外科看護総論、国民衛生の動向 医歯薬出版周手術期看護 1、2、3 フィジカルアセスメント完全ガイド JJNブックナースのための心電図テキスト	

科目名	成人看護学Ⅱ方法論2	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：適応過程にある対象の特徴を基盤に、機能障害をもつ対象への看護の役割と方法を理解する。</p> <p>目標：1. 脳・神経機能障害をもつ対象の問題と特徴をふまえ、症状、検査、治療に応じた看護の方法を学ぶ。</p> <p>2. 運動機能障害をもつ対象の問題と特徴をふまえ、症状、検査、治療に応じた看護の方法を学ぶ。</p>			
講義計画			
1回目	脳・神経機能障害をもつ対象の看護		
2回目	脳・神経機能障害をもつ対象の看護		
3回目	脳・神経機能障害をもつ対象の看護		
4回目	脳・神経機能障害をもつ対象の看護		
5回目	脳・神経機能障害をもつ対象の看護		
6回目	脳・神経機能障害をもつ対象の看護		
7回目	脳・神経機能障害をもつ対象の看護		
8回目	運動機能障害を持つ対象の看護		
9回目	運動機能障害を持つ対象の看護		
10回目	運動機能障害を持つ対象の看護		
11回目	運動機能障害を持つ対象の看護		
12回目	運動機能障害を持つ対象の看護		
13回目	運動機能障害を持つ対象の看護		
14回目	運動機能障害を持つ対象の看護		
15回目	まとめ		
評価方法			
レポート、筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>医学書院成人看護学 脳・神経⑦ 運動⑩、国民衛生の動向</p> <p>医学書院別巻リハビリテーション看護、フィジカルアセスメント完全ガイド</p>			

科目名	成人看護学Ⅱ方法論3	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：セルフケアを再獲得する過程にある対象の特徴を基盤に、機能障害をもつ対象への看護の役割と方法を理解する。</p> <p>目標：1. 内部恒常性機能障害をもつ対象の問題と特徴をふまえ、症状、検査、治療に応じた看護の方法を学ぶ。</p> <p>2. 身体防御機能障害をもつ対象の問題と特徴をふまえ、症状、検査、治療に応じた看護の方法を学ぶ。</p> <p>3. 血液造血機能障害をもつ対象の問題と特徴をふまえ、症状、検査、治療に応じた看護の方法を学ぶ。</p>			
講義計画			
1回目	内部恒常性機能障害を持つ患者の看護		
2回目	内部恒常性機能障害を持つ患者の看護		
3回目	内部恒常性機能障害を持つ患者の看護		
4回目	内部恒常性機能障害を持つ患者の看護		
5回目	内部恒常性機能障害を持つ患者の看護		
6回目	内部恒常性機能障害を持つ患者の看護		
7回目	身体防御機能障害をもつ対象の看護		
8回目	身体防御機能障害をもつ対象の看護		
9回目	身体防御機能障害をもつ対象の看護		
10回目	身体防御機能障害をもつ対象の看護		
11回目	血液造血機能障害のある対象の看護		
12回目	血液造血機能障害のある対象の看護		
13回目	血液造血機能障害のある対象の看護		
14回目	血液造血機能障害のある対象の看護		
15回目	まとめ		
評価方法			
レポート、筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>医学書院成人看護学 血液・造血器④ 内分泌・代謝⑥ アレルギー・膠原病感染症⑩、 国民衛生の動向 メヂカルフレンド社 成人看護学④</p>			

科目名	成人看護学Ⅲ	開講時期	2年次 後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：対象を統合的にとらえ、健康障害に応じた看護過程を展開し、その方法を理解する。</p> <p>目標： 1. 生命の危機状態にある対象の特徴をふまえ、看護過程の展開の方法を理解する。 2. セルフケアを再獲得する過程にある対象の特徴をふまえ、看護過程の展開の方法を理解する。</p>			
講義計画			
1回目	看護過程 事例①胃がん		
2回目	看護過程 事例①胃がん		
3回目	看護過程 事例①胃がん		
4回目	看護過程 事例①胃がん		
5回目	看護過程 事例①胃がん		
6回目	看護過程 事例①胃がん		
7回目	看護過程 事例①胃がん 発表会		
8回目	看護過程 事例②糖尿病		
9回目	看護過程 事例②糖尿病		
10回目	看護過程 事例②糖尿病		
11回目	看護過程 事例②糖尿病		
12回目	看護過程 事例②糖尿病		
13回目	看護過程 事例②糖尿病		
14回目	看護過程 事例②糖尿病		
15回目	まとめ		
評価方法			
事例展開演習記録、筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>医学書院 成人看護学総論 医学書院 臨床外科看護総論 医学書院 成人看護学 全巻 医歯薬出版株式会社 周手術期看護1・2・3 NHKテキストブック「今日健康・胃がん・糖尿病」 メヂカルフレンド中範囲理論</p>			

科目名	老年看護学 I	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：老年期の特徴と高齢者を取り巻く社会、サポートシステムについて理解し、高齢者の生活に視点をあてた老年看護の特性と役割について理解する。</p> <p>目標：1. 老年看護の概念と変遷を理解する。 2. 老年期の身体的、精神的、社会的特徴を理解する。 3. 老年看護の特性と役割を理解する。 4. 社会の変化に伴う高齢者の保健医療福祉の現状と課題について理解する。</p>			
講義計画			
1 回目	老年看護の概念①		
2 回目	老年看護の概念①		
3 回目	老年看護の対象 加齢に伴う変化		
4 回目	生きてきた時代の歴史(グループワーク)		
5 回目	生きてきた時代の歴史(発表会)		
6 回目	生きてきた時代の歴史(発表会)		
7 回目	高齢者体験 演習		
8 回目	高齢者体験 演習		
9 回目	生活史 グループワーク・発表会		
10 回目	生活史 グループワーク・発表会		
11 回目	高齢者をとりまく社会 高齢者と家族		
12 回目	高齢者と社会システム		
13 回目	老年看護活動の特性		
14 回目	高齢者の保険医療福祉の現状と課題		
15 回目	まとめ		
評価方法			
筆記テスト・レポート課題・グループワーク状況・発表会内容			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>医学書院：系統老年看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 国民衛生の動向</p>			

科目名	老年看護学Ⅱ	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	2単位(45時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：老年期の特徴をふまえ、健康生活や健康レベルに合わせた看護援助の方法を理解する。</p> <p>目標：1. 高齢者にとっての健康や健生活について理解する。 2. 高齢者の多様なセルフケアのあり様について理解する。 3. 高齢者に出現しやすい症状に応じた看護の方法を理解する。 4. 高齢者の健康障害の状況に合わせた看護の方法を理解する。 5. 高齢者の終末期ケアを理解する。</p>			
講義計画			
1回目	高齢者のアセスメント		
2回目	高齢者の生活を支える看護(活動と休息)		
3回目	高齢者の生活を支える看護(食事と排泄)		
4回目	高齢者の生活を支える看護(清潔と身じたく)		
5回目	高齢者の生活を支える看護(コミュニケーションとセクシュアリティ)		
6回目	高齢者に特有な症候・障害と看護		
7回目	高齢者に特有な症候・障害と看護		
8回目	疾患を持つ高齢者への看護 パーキンソン症候群・感染症		
9回目	疾患を持つ高齢者への看護 骨粗しょう症		
10回目	疾患を持つ高齢者への看護 褥瘡		
11回目	疾患を持つ高齢者への看護 認知症 せん妄		
12回目	疾患を持つ高齢者への看護 認知症 せん妄		
13回目	疾患を持つ高齢者への看護 認知症 せん妄		
14回目	治療を受ける高齢者への看護		
15回目	治療を受ける高齢者への看護		
16回目	終末期の看護		
17回目	終末期の看護		
18回目	保健医療福祉施設における看護 受療形態に応じた高齢者の看護		
19回目	保健医療福祉施設における看護 リハビリテーション		
20回目	グラウンドゴルフ(地域の運動会参加)		
21回目	グラウンドゴルフ(地域の運動会参加)		
22回目	グラウンドゴルフ(地域の運動会参加)		
評価方法			
筆記テスト・レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
医学書院：系統看護学講座 老年看護学			

科目名	老年看護学Ⅲ	開講時期	2年次 後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：あらゆる健康レベルや状況下にある高齢者に対し、必要な基礎的援助技術能力を養う。さらに、事例を基に看護過程を展開し、高齢者の多様性に対処した個別的な看護を考えることができる。</p> <p>目標：1. 高齢者の特徴をふまえ、「生活」に視点をあてた看護の焦点を捉えることができる 2. 高齢者の特徴的な健康レベルに応じた援助技術の方法を学ぶ。 3. 高齢者の健康障害の特徴を理解したうえで、QOLの向上を目指した看護展開ができる。</p>			
講義計画			
1回目	アクティビティケア 企画ガイダンス		
2回目	看護過程① 導入個人ワーク①		
3回目	看護技術① 導入個人ワーク①		
4回目	看護過程② 導入個人ワーク②		
5回目	看護過程③ 導入個人ワーク③		
6回目	アクティビティ 発表会		
7回目	看護技術② 演習		
8回目	看護技術③ 演習		
9回目	看護過程④ グループワーク①		
10回目	看護過程⑤ グループワーク②		
11回目	食事介助		
12回目	食事介助		
13回目	看護過程⑥ 発表会		
14回目	看護過程⑦ 発表会		
15回目	まとめ		
評価方法			
筆記テスト・レポート課題（看護過程）・発表会（グループワーク）内容			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>医学書院：系統看護学講座 老年看護学</p> <p>医学書院：生活機能からみた老年看護過程</p>			

科目名	小児看護学 I	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：小児を取り巻く諸問題や環境、子ども観の変化等から対象のおかれている状況を理解し、社会における小児看護の役割を理解する。</p> <p>目標：1. 小児の成長発達を捉え、それに応じた看護の方法を理解する。 2. 小児の特性と小児看護の特徴を理解する。 3. 小児看護の役割を理解する。 4. 小児を取りまく環境や諸問題を捉え、それが小児に及ぼす影響を理解する。 5. 小児の生活と養護を理解する。</p>			
講義計画			
1 回目	小児看護の特徴と理念		
2 回目	小児と家族を取り巻く社会		
3 回目	小児と家族を取り巻く社会		
4 回目	小児と家族を取り巻く社会		
5 回目	成長発達		
6 回目	成長発達		
7 回目	成長発達		
8 回目	成長発達 評価		
9 回目	成長発達 評価		
10 回目	乳幼児期の生活と養護 離乳食・調乳		
11 回目	乳幼児期の生活と養護		
12 回目	乳幼児期の生活と養護		
13 回目	乳幼児期の生活と養護 発表会		
14 回目	学童期の生活と養護		
15 回目	思春期の生活と養護		
評価方法			
筆記テスト、レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
小児看護学1 医学書院 パーフェクト臨床実習 照林社 はじめての育児 学研 国民衛生の動向 公衆衛生がみえる			

科目名	小児看護学Ⅱ	開講時期	2年次 後期
単位数(時間数)	2単位(45時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：小児の健康障害が小児や家族に与える影響を理解し、各健康段階、症状における基本的な看護援助ができる能力を養う。</p> <p>目標：1. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する。 2. 療養環境が小児に及ぼす影響を理解し、安全と安楽のための看護管理の必要性を認識する。 3. 小児に出現しやすい症状に応じた看護の方法を理解する。</p>			
講義計画			
1回目	病気・障害を持つ小児と家族の看護		
2回目	小児の状況に特徴づけられる看護		
3回目	小児の状況に特徴づけられる看護		
4回目	小児のアセスメント		
5回目	小児のアセスメント		
6回目	小児のアセスメント		
7回目	小児の疾患		
8回目	小児の疾患		
9回目	小児の疾患		
10回目	症状を示す小児の看護		
11回目	症状を示す小児の看護		
12回目	症状を示す小児の看護		
13回目	症状を示す小児の看護		
14回目	状況、経過別にみる小児と家族の看護 先天異常・低出生体重児		
15回目	急性期・周手術期にある子どもと家族の看護		
16回目	終末期にある子どもと家族の看護		
17回目	慢性期にある子どもと家族の看護		
18回目	慢性期にある子どもと家族の看護		
19回目	慢性期にある子どもと家族の看護		
20回目	障害のある子どもと家族の看護		
21回目	障害のある子どもと家族の看護		
22回目	障害のある子どもと家族の看護		
23回目	まとめ		
評価方法			
筆記テスト、レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
小児看護学1 小児看護学2 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 照林社 はじめての育児 学研 / 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ			

科目名	小児看護学Ⅲ	開講時期	3年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：小児の健康の段階に応じた看護技術を習得する。さらに健康障害のある小児の事例もとにした看護過程を展開し、総合的な看護の視点を養う。</p> <p>目標：1. 小児看護に必要な技術の目的、方法を理解する。 2. 安全で適切な小児看護技術を学ぶ。 3. 小児の特徴をふまえ、看護過程の展開の方法を理解する。</p>			
講義計画			
1回目	小児看護技術		
2回目	小児看護技術		
3回目	小児看護技術		
4回目	小児看護技術		
5回目	小児看護技術		
6回目	小児看護技術 演習		
7回目	小児看護技術 演習		
8回目	看護過程		
9回目	看護過程		
10回目	看護過程		
11回目	看護過程		
12回目	看護過程		
13回目	看護過程		
14回目	看護過程		
15回目	看護過程		
評価方法			
レポート、演習態度、事例展開演習記録、筆記テスト、出席			
参考書、テキスト、参考文献			
小児看護学1 小児看護学2 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 照林社 写真でわかる小児看護技術 インターメディア			

科目名	母性看護学 I	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
目的	社会の動向を踏まえ、女性の特徴や対象および母性看護の機能と役割を理解する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 母性看護の概念や変遷を理解する。 2 女性を取り巻く諸問題を理解し母性看護の課題を考える。 3 母性看護の対象を生理的・心理的・社会的側面から理解する。 4 性の意義を理解し、生命の尊厳と人間の尊重について考えを深める。 5 保健医療福祉チームにおける母性看護の機能と役割を理解する。 		
講義計画			
1 回目	母性看護学の概念		
2 回目	母性看護学の概念		
3 回目	母性看護の変遷		
4 回目	母性看護の変遷		
5 回目	母性看護を取り巻く諸問題		
6 回目	母性看護を取り巻く諸問題		
7 回目	母性看護を取り巻く諸問題		
8 回目	母性看護を取り巻く諸問題		
9 回目	母性看護の対象		
10 回目	母性看護の対象		
11 回目	母性看護の対象		
12 回目	性の意義		
13 回目	性の意義		
14 回目	母性看護の機能と役割		
15 回目	母性看護の機能と役割		
評価方法			
レポートと筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
母性看護学概論, 医学書院 国民衛生の動向, 母子保健の主なる統計,			

科目名	母性看護学Ⅱ方法論1	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：女性のライフサイクル各期の健康問題や女性に特徴的な妊娠・分娩・産褥期および新生児の生理とその診断・治療を理解する。</p> <p>目標：1 女性各期における健康問題と看護を理解する。 2 女性に特徴的な妊娠・分娩・産褥期および新生児の生理とその診断・治療を理解する。</p>			
講義計画			
1回目	妊娠期の生理的变化		
2回目	妊娠期の生理的变化		
3回目	分娩期の生理的变化		
4回目	産褥期の生理的变化		
5回目	妊娠・分娩・産褥期の生理 発表会		
6回目	ライフサイクルにおける女性の健康		
7回目	思春期と成熟期の健康と看護		
8回目	思春期における健康問題と看護		
9回目	更年期と老年期の健康と看護		
10回目	リプロダクティブヘルス		
11回目	更年期と老年期の健康問題と看護		
12回目	妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の異常と診断、検査、治療		
13回目	妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の異常と診断、検査、治療		
14回目	妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の異常と診断、検査、治療		
15回目	乳がん患者の看護		
評価方法			
筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>母性看護学概論, 母性看護学各論 医学書院 成人看護学 女性生殖器 医学書院</p>			

科目名	母性看護学Ⅱ方法論2	開講時期	2年次 後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：妊娠・分娩・産褥期にある女性の特徴および新生児の特徴を理解し、健康問題に関わる援助方法を身につける。</p> <p>目標：1 女性の特徴的な妊娠・分娩・産褥期および新生児の生理的変化とその診断・検査を理解する。 2 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の病態を理解する。 3 妊婦・産婦・褥婦・新生児およびその家族の心理的・社会的特徴を理解する。 4 妊婦・産婦・褥婦および新生児の援助方法を模倣する。</p>			
講義計画			
1回目	正常妊娠の看護		
2回目	妊娠期のセルフケア、マイナートラブルへの看護		
3回目	妊娠期の異常と看護		
4回目	分娩期の看護(正常分娩)		
5回目	分娩期の看護(異常分娩)		
6回目	産褥期の看護 褥婦の身体的、心理的変化		
7回目	産褥期の看護 褥婦のアセスメントと看護		
8回目	進行性変化 母乳育児支援		
9回目	産褥の異常と看護		
10回目	新生児の異常と看護		
11回目	マタニティーサイクルの看護		
12回目	妊娠期・分娩期 技術演習		
13回目	妊娠期・分娩期 技術演習		
14回目	産褥期 技術演習		
15回目	新生児期 技術演習		
評価方法			
演習評価, 筆記テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
母性看護学各論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 母性看護学 母性看護技術 MC メディカ出版			

科目名	母性看護学Ⅲ	開講時期	3年次 前期
単位数(時間数)	1単位(15時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
目的：母性看護の対象に応じた看護展開を理解し、対象を総合的に捉える能力を身につける。			
目標：1 母性看護の対象を把握し情報収集・アセスメントの特徴を理解する。 2 母性看護における主な看護技術とその特徴およびそれらの関連性を理解する。			
講義計画			
1回目	母性看護過程の考え方 正常褥婦の看護過程		
2回目	対象及び看護過程の特徴 初期計画の立案		
3回目	対象及び看護過程の特徴 初期計画の立案		
4回目	対象及び看護過程の特徴 初期計画の立案		
5回目	対象及び看護過程の特徴 初期計画の立案		
6回目	対象及び看護過程の特徴 初期計画の立案		
7回目	看護過程発表会		
8回目	看護過程発表会 評価		
評価方法			
筆記テスト レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
母性看護学概論、母性看護学各論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 母性看護学 母性看護技術 MCメディカ出版			

科目名	精神看護学 I	開講時期	1 年次 後期
単位数(時間数)	1 単位(15 時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：精神医療の歴史および精神保健における法制度の変遷をふまえ、社会環境の変化やライフサイクルにおける精神の健康と保健に関して学ぶ。</p> <p>目標：1. 精神保健の概念、精神の健康とは、および精神保健について理解する。 2. ライフサイクルにおける発達課題および個人と環境との精神力動とそこに生ずるストレス状態、危機状況への看護介入について理解する。 3. 精神医療の歴史の変遷について理解する。 4. 当事者との交流を通して、現在のノーマライゼーションにおける精神障害者の権利と社会参加を考える。</p>			
講義計画			
1 回目	精神保健 看護の基本的概念		
2 回目	ライフサイクルにおける心の発達と健康 心のはたらきの理解		
3 回目	ライフサイクルにおける心の発達と健康 心のはたらきの理解		
4 回目	ライフサイクルにおける心の発達と健康 心のはたらきの理解		
5 回目	ライフサイクルにおける心の発達と健康 心のしくみと人格の発達		
6 回目	ライフサイクルにおける心の発達と健康 性の発達		
7 回目	危機介入とストレス理論		
8 回目	対人関係理論 関係のアセスメント(プロセスレコード)		
9 回目	対人関係理論 関係のアセスメント(プロセスレコード)		
10 回目	精神障害者の社会参加保障		
11 回目	リエゾン精神看護		
12 回目	精神障害と治療の歴史 精神障害と法制度		
13 回目	精神障害の理解(DVD 視聴)		
14 回目	精神障害の理解(DVD 視聴)		
15 回目	ケアの前提、原則、方法		
評価方法			
1) 筆記テスト 2) レポート 3) 出席状況			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>武井麻子著：系統看護学講座・精神看護学 I・精神看護の基礎（医学書院）</p> <p>武井麻子著：系統看護学講座・精神看護学 II・精神看護の展開（医学書院）</p> <p>吉浜文洋ほか編：学生のための精神看護学（医学書院）</p>			

科目名	精神看護学Ⅱ方法論1	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：精神の症状・疾患と治療モデルの理解を通して看護実践の裏付けとなる理論的枠組みを学ぶ。</p> <p>目標：1. 精神障害についての理解を踏まえて、治療モデルを理解する。 2. 保健医療福祉の視点から、精神障害者の生活を支えるシステムと暮らしの場の拡大の援助について理解する。 3. 施設見学を通して治療的環境を理解し、そこでの看護の役割・機能を考える。</p>			
講義計画			
1回目	精神症状論と状態像		
2回目	精神障害の診断と分類、統合失調症		
3回目	心理テストについて		
4回目	精神分析について		
5回目	小児の精神、発達障害		
6回目	精神に障害のある人の生活を支えるシステム		
7回目	気分障害 パーソナリティー障害		
8回目	精神療法について		
9回目	器質性精神障害 ストレス関連障害 身体表現性障害		
10回目	薬物療法 電気痙攣療法		
11回目	入院における治療環境(施設見学)		
12回目	入院における治療環境(施設見学)		
13回目	入院における治療環境(施設見学)		
14回目	入院における治療環境(施設見学)		
15回目	入院という治療環境の意味		
評価方法			
1) 筆記テスト 2) 施設見学レポート 3) 出席状況			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>武井麻子著：系統看護学講座・精神看護学Ⅰ・精神看護の基礎（医学書院）</p> <p>武井麻子著：系統看護学講座・精神看護学Ⅱ・精神看護の展開（医学書院）</p> <p>吉浜文洋ほか編：学生のための精神看護学（医学書院）</p>			

科目名	精神看護学Ⅱ方法論2	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：精神看護の基本を学び、精神疾患に関連する問題および保健医療福祉の視点から精神看護の方法を具体的に学ぶ。</p> <p>目標：1. 精神看護の基本および看護師としての基本的態度について理解する。 2. 精神障害に対する具体的な看護介入の方法について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	精神科対象の特徴 看護の役割		
2回目	患者への近づき方と面接技法		
3回目	精神症状別看護(グループワーク)		
4回目	精神症状別看護(発表)		
5回目	精神症状別看護(発表・まとめ)		
6回目	精神症状別看護 人格障害 神経症 PTSD		
7回目	精神症状別看護 統合失調症患者		
8回目	精神症状別看護 感情障害 てんかん		
9回目	精神症状別看護 アルコール依存症 薬物依存		
10回目	精神療法 社会・生活療法		
11回目	看護カウンセリング 認知療法		
12回目	治療時の看護 薬物療法他		
13回目	行動制限を受ける患者の看護		
14回目	治療時の看護 薬物療法他		
15回目	身体のケア 地域で生活するための支援		
評価方法			
1) 筆記テスト 2) 出席状況			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>武井麻子著：系統看護学講座・精神看護学Ⅰ・精神看護の基礎（医学書院）</p> <p>武井麻子著：系統看護学講座・精神看護学Ⅱ・精神看護の展開（医学書院）</p> <p>吉浜文洋ほか編：学生のための精神看護学（医学書院）</p>			

科目名	精神看護学Ⅲ	開講時期	2年次 後期
単位数(時間数)	1単位(15時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：精神に障害のある人の事例をもとにした看護過程を展開し、総合的な看護の視点を養う。</p> <p>目標：1. 精神科看護における看護過程の特徴を理解する 2. 紙上事例をもとに系統だった方法で患者を理解する（アセスメント） 3. 健康問題を解決するための具体的方法を理解する（ケアプラン）</p>			
講義計画			
1回目	精神看護学における看護過程 1号用紙作成		
2回目	情報の整理(アセスメント)個人ワーク		
3回目	情報の整理(アセスメント)個人ワーク		
4回目	病態関連図作成 看護計画 グループワーク		
5回目	病態関連図作成 看護計画 グループワーク		
6回目	病態関連図作成 看護計画 グループワーク 発表準備		
7回目	看護過程 発表会		
8回目	小テスト まとめ		
評価方法			
1) 出席状況 2) グループワーク 状況 3) 看護過程展開記録内容（個人・グループ）			
参考書、テキスト、参考文献			
武井麻子著：系統看護学講座・精神看護学Ⅰ・精神看護の基礎（医学書院） 武井麻子著：系統看護学講座・精神看護学Ⅱ・精神看護の展開（医学書院） 吉浜文洋ほか編：学生のための精神看護学（医学書院）			

科目名	成人看護学実習 I	実施時期	2 年次 後期
単位数(時間数)	2 単位(90 時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：成人の特徴の理解を基盤に、日常生活行動に障害のある対象の看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。</p> <p>目標：1. 日常生活行動に障害のある対象の特徴を理解する 2. 日常生活行動に障害のある対象の個別的な看護を実践する。 3. 日常生活行動に障害のある対象の日常生活、社会復帰への看護の役割を理解する。 4. 目標達成に向けて主体的に行動する。</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	12 日間 (1 日 7.5 時間)		
実習方法	学生は 1 グループ 7 名前後で編成し、日常生活行動に障害のある入院患者を対象とし、看護の実践を通して学習する。		
実習内容	<p>初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。</p> <p>実習内容と方法の詳細については、「成人看護学実習要項」を参照。</p> <p>臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。</p> <p>実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。</p>		
評価方法			
<p>1. 実習態度</p> <p>2. 実習記録物、実習課題レポート</p>			

科目名	成人看護学実習Ⅱ	実施時期	3年次 前期
単位数(時間数)	2単位(90時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：成人の特徴の理解を基盤に、危機的状況および周手術期にある対象の看護を実践するために必要な基礎的能力を養う</p> <p>目標：1. 生命の危機的状況・周手術期にある対象の特徴を理解する 2. 生命の危機的状況・周手術期にある対象の特徴を踏まえた個別的な看護を実践する 3. 生命の危機的状況・周手術期における保健医療福祉チームの連携と、看護の役割を理解する 4. 目標達成に向けて主体的に行動する</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	12日間(1日7.5時間)		
実習方法	学生は1グループ7名前後で編成し、急性期・周手術期にある入院および外来に通院する患者を対象とし、看護の実践を通して学習する。		
実習内容	<p>初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。</p> <p>実習内容と方法の詳細については、「成人看護学実習要項」を参照。</p> <p>臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。</p> <p>実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。</p>		
評価方法			
<p>1. 実習態度</p> <p>2. 実習記録物、実習課題レポート</p>			

科目名	成人看護学実習Ⅲ	実施時期	3年次 前期
単位数(時間数)	2単位(90時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：成人の特徴の理解を基盤に、セルフケアを再獲得する過程にある対象の看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。</p> <p>目標：1. セルフケアを再獲得する過程にある対象を理解する。 2. セルフケアを再獲得する過程にある対象の看護の特徴をふまえ、個別的な看護を実践する。 3. セルフケアを再獲得する過程にある対象に対して、自立と悪化予防に向けてのセルフケアの向上、苦痛の緩和とQOLの向上をめざした看護の役割を理解する。 4. 目標達成に向けて主体的に行動する。</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	12日間（1日7.5時間）		
実習方法	学生は1グループ7名前後で編成し、セルフケアを再獲得する過程にある入院および外来に通院する患者を対象とし、看護の実践を通して学習する。		
実習内容	<p>初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。</p> <p>実習内容と方法の詳細については、「成人看護学実習要項」を参照。</p> <p>臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。</p> <p>実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。</p>		
評価方法			
<p>1. 実習態度</p> <p>2. 実習記録物、実習課題レポート</p>			

実習名	老年看護学実習 I	実施時期	2 年次 後期
単位数(時間数)	2 単位(90 時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：老年期の特徴を理解し、施設で生活する対象とその家族へ、看護実践できる必要な基礎的能力を養う。</p> <p>目標：1. 施設で生活する高齢者の特徴を理解する。 2. 施設で生活する高齢者のもてる力に着眼とした、日常生活援助を実践する。 3. 施設での保健医療福祉チームにおける、老年看護の目的と役割を理解する。 4. 目標達成に向けて主体的に行動できる。</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	12 日間 (1 日 7.5 時間)		
実習方法	学生は 1 グループ 7 名前後で編成し、老人保健施設での入所者を対象とし、看護の実践を通して学習する。		
実習内容	<p>初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。</p> <p>実習内容と方法の詳細については、「老年看護学実習要項」を参照。</p> <p>臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。</p> <p>実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。</p>		
評価方法			
<p>1. 実習態度</p> <p>2. 実習記録物、実習課題レポート</p>			

実習名	老年看護学実習Ⅱ	実施時期	3年次 前期
単位数(時間数)	2単位(90時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：老年期の特徴を理解し、健康障害のある対象と、その家族へ看護実践できる必要な基礎的能力を養う。</p> <p>目標：1. 健康障害のある高齢者の特徴を理解する。 2. 健康障害のある高齢者に個別的な看護を実践する。 3. 保健医療福祉チームにおける老年看護の目的と役割を理解する。 4. 目標達成に向けて主体的に行動できる。</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	12日間（1日7.5時間）		
実習方法	学生は1グループ7名前後で編成し、入院および外来に通院する患者を対象とし、看護の実践を通して学習する。		
実習内容	<p>初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。</p> <p>実習内容と方法の詳細については、「老年看護学実習要項」を参照。</p> <p>臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。</p> <p>実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。</p>		
評価方法			
<p>1. 実習態度</p> <p>2. 実習記録物、実習課題レポート</p>			

実習名	小児看護学実習	実施時期	3年次 前期
単位数(時間数)	2単位(90時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：保健医療福祉チームの一員としての役割と責任を理解し、小児と家族の健康段階に応じた看護を展開する。</p> <p>目標（保育所）：1. 健康な乳幼児の成長発達の特徴を理解する。 2. 乳幼児の成長発達に応じた基本的な生活習慣、遊びの援助を実践する。 3. 保育園の概要を知り、保育環境のあり方を理解する。 4. 目標達成に向けて主体的に行動し、看護者としての態度を身につける。</p> <p>目標（病棟・外来）：1. 健康障害のある小児および家族を理解し、対象とより良いコミュニケーションを保つことができる。 2. 健康障害をもつ小児とその家族に個別的な看護を実践する。 3. 保健医療福祉チームにおける小児看護の目的と役割について理解する。 4. 目標達成に向けて主体的に行動する。</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	12日間（1日7.5時間）		
実習方法	学生は1グループ7名前後で編成し、保育所（3日間）および小児科病棟・外来（7日間）にて入院・通院する患児を対象とし、看護の実践を通して学習する。		
実習内容	<p>初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。</p> <p>実習内容と方法の詳細については、「小児看護学実習要項」を参照。</p> <p>臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。</p> <p>実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。</p>		
評価方法			
<p>1. 実習態度</p> <p>2. 実習記録物、実習課題レポート</p>			

実習名	母性看護学実習	実施時期	3年次 前期
単位数(時間数)	2単位(90時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：女性の健康に関する活動の実際を見学あるいは実施し、保健 医療 福祉チームの一員としての役割を理解する。また周産期にある女性の心身の変化および新生児の心身の変化を理解し、対象に応じた看護を展開する。</p> <p>目標：1. 周産期における女性の心身の変化および新生児の心身の変化を理解する。 2. 対象やその家族の健康問題を明確にし、対象に応じた看護を展開する。 3. 地域・施設での母子保健活動の実際をとおして、保健・医療・福祉チームにおける母性看護の目的と役割を学ぶ。 4. 目的達成に向けて主体的に行動し、看護者としての態度を養う。</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	12日間（1日7.5時間）		
実習方法	学生は1グループ7名前後で編成し、入院および外来に通院する妊婦・産婦・褥婦を対象とし、看護の実践を通して学習する。		
実習内容	<p>初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。</p> <p>実習内容と方法の詳細については、「母性看護学実習要項」を参照。</p> <p>臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。</p> <p>11日目は、母子未来センターでの実習を行う。</p> <p>実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。</p>		
評価方法			
<p>1. 実習態度</p> <p>2. 実習記録物、実習課題レポート</p>			

実習名	精神看護学実習	実施時期	2年次 後期
単位数(時間数)	2単位(90時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：精神の健康に問題を持つ人を心理的・社会的・身体的に統合された存在として理解を深め、健康障害に応じた援助のための知識、技術、態度を学ぶ</p> <p>目標：1. 対象との相互作用の中で自己洞察し、自己理解、対象理解の重要性について学ぶ 2. ライフサイクルにおける対象及び家族の看護問題を明確にし対象にあった看護展開をする 3. 保健医療福祉チームにおける精神看護の目的と役割を理解する 4. 目標達成に向けて主体的に行動し、看護者としての態度を身につける</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	12日間(1日7.5時間)		
実習方法	学生は1グループ7名前後で編成し、入院患者を対象とし、看護の実践を通して学習する。		
実習内容	<p>初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。</p> <p>実習内容と方法の詳細については、「精神看護学実習要項」を参照。</p> <p>臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。</p> <p>実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。</p>		
評価方法			
<p>1. 実習態度</p> <p>2. 実習記録物、実習課題レポート</p>			

科目名	在宅看護論 I	開講時期	2 年次 前期
単位数(時間数)	1 単位(30 時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：地域の文化に目を向け、在宅で療養する対象の生活を尊重し、在宅看護の機能と役割を理解する。</p> <p>目標：1. 地域の文化、特性を理解し、在宅看護の概念や変遷を理解する。 2. 在宅療養者の特性と在宅看護の特徴を理解する。 3. 在宅看護活動の意義と役割について理解する。 4. 対象をとりまく保健医療福祉の連携を理解する。</p>			
講義計画			
1 回目	在宅看護の概念 地域看護の概念		
2 回目	在宅看護の概念		
3 回目	在宅看護の対象 地域で生活する人、地域で療養する人		
4 回目	在宅看護の対象 療養を支える家族		
5 回目	権利保障①		
6 回目	権利保障②		
7 回目	医療福祉サービス①		
8 回目	在宅看護の目的と役割		
9 回目	在宅看護の目的と役割		
10 回目	継続看護①		
11 回目	沖縄の文化と風習		
12 回目	継続看護②		
13 回目	沖縄の歴史発表会		
14 回目	沖縄の歴史発表会		
15 回目	保健医療福祉サービス②		
評価方法			
筆記テスト レポート 出席状況 受講態度 豆テスト			
参考書、テキスト、参考文献			
地域療養を支えるケア 国民衛生の動向 財団法人厚生統計協会 ・ 公衆衛生がみえる			

科目名	在宅看護論Ⅱ方法論1	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：1. 地域で生活している対象の健康課題と看護の方法を理解する。</p> <p>目標：1. 対象の状態に応じた看護の方法について理解する。 2. 在宅で療養する対象者と家族に対する援助技術を理解する。 3. 対象及び家族の健康課題の対処方法について学ぶ。 4. 社会資源の活用について理解する。</p>			
講義計画			
1回目	脳血管疾患後遺症療養者の看護①		
2回目	脳血管疾患後遺症療養者の看護②		
3回目	認知に障害のある療養者の看護		
4回目	在宅生活を希望する精神障害療養者の看護		
5回目	呼吸器に障害のある療養者の看護		
6回目	呼吸器に障害のある療養者の看護		
7回目	24時間ケアを要する難病療養者の看護		
8回目	24時間ケアを要する難病療養者の看護		
9回目	終末期療養者の看護		
10回目	終末期療養者の看護		
11回目	疾病や障害を持つ小児の在宅看護		
12回目	生活自立困難者の看護		
13回目	介護負担者の支援		
14回目	虐待のある療養者の家族支援		
15回目	虐待のある療養者の家族支援		
評価方法			
筆記テスト 出席状況 受講態度			
参考書、テキスト、参考文献			
地域療養を支えるケア 国民衛生の動向 財団法人厚生統計協会 公衆衛生がみえる			

科目名	在宅看護論Ⅱ方法論2	開講時期	2年次 前期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：地域で生活している対象個々の価値観及び生活背景に目を向け、社会資源を活用して可能な限り自立を促すための援助を実践する能力を身につける。</p> <p>目標：1. 在宅療養者の日常生活動作のアセスメント方法を理解する。 2. 在宅における看護用具の工夫を学ぶ。 3. 在宅における医療処置に伴う管理方法が理解できる。 4. 在宅における家族教育の重要性を学ぶ。</p>			
講義計画			
1回目	在宅看護の実際 訪問看護師としての基本的心構え		
2回目	在宅看護の実際		
3回目	日常生活援助の方法 援助技術 支援体制マップ		
4回目	支援体制マップの作製		
5回目	支援体制マップの作製		
6回目	支援体制マップの作製		
7回目	指導案作成		
8回目	指導案作成		
9回目	指導案作成		
10回目	指導案作成		
11回目	指導案 ロールプレイ練習		
12回目	発表会		
13回目	在宅酸素療法		
14回目	在宅人工呼吸療法		
15回目	在宅褥瘡管理		
評価方法			
筆記テスト・演習レポート・指導案 出席状況 受講態度			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>地域療養を支えるケア 在宅療養を支える技術</p> <p>国民衛生の動向 財団法人厚生統計協会・公衆衛生がみえる</p>			

科目名	在宅看護論Ⅲ	開講時期	3年次 前期
単位数(時間数)	1単位(15時間)	担当教員	
授業形式	講義	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：在宅で療養する対象の訪問看護を実施するための看護展開能力を身につけ、総合的な看護の視点を養う。</p> <p>目標：1) 在宅看護の対象を把握し、情報収集・アセスメントの特徴を理解する。 2) 在宅看護の特徴をふまえ、計画立案・実施・評価の方法を学ぶ。</p>			
講義計画			
1回目	在宅療養を受けている対象の看護展開		
2回目	状態別看護過程の展開		
3回目	状態別看護過程の展開		
4回目	状態別看護過程の展開		
5回目	状態別看護過程の展開		
6回目	状態別看護過程の展開		
7回目	発表会		
8回目	発表会		
評価方法			
筆記テスト レポート 出席状況 受講態度			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>地域療養を支えるケア</p> <p>国民衛生の動向 財団法人厚生統計協会・公衆衛生がみえる</p>			

科目名	統合 I	開講時期	3 年次 前期
単位数(時間数)	2 単位(45 時間)	担当教員	
授業形式	講義・演習	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：看護管理の実践に必要な知識を深め、医療安全のあり方を学ぶ。 目標：1. 保健医療福祉チームの一員として、看護管理の原則を理解する。 2. 医療安全における看護の役割が理解できる。 3. 感染予防・管理の方法が理解できる。</p>			
講義計画			
1 回目	医療安全へのアプローチ		
2 回目	医療事故・インシデントレポートの分析と活用		
3 回目	医療事故・インシデントレポートの分析と活用		
4 回目	多重課題の特徴と対応		
5 回目	多重課題の特徴と対応		
6 回目	医療事故防止のための対策 問題解決の手順		
7 回目	医療事故防止のための対策 問題解決の手順		
8 回目	医療事故防止のための対策 問題解決の手順		
9 回目	医療事故防止のための対策 問題解決の手順		
10 回目	医療事故防止のための対策 問題解決の手順		
11 回目	看護管理 管理とは		
12 回目	看護管理 組織		
13 回目	看護管理 看護と経営		
14 回目	看護管理 各看護単位での看護管理、人材育成・活用		
15 回目	看護管理 メンバーシップ・リーダーシップ		
16 回目	看護管理 看護政策と行政		
17 回目	感染対策 感染防止対策の基本		
18 回目	感染対策 看護師の責務と役割		
19 回目	感染対策 感染と院内感染		
20 回目	感染管理 感染管理チームの役割		
21 回目	感染管理 院内感染サーベイランス		
22 回目	感染管理 感染対策がもたらす経済効果		
23 回目	まとめ		
評価方法			
筆記テスト、レポート			
参考書、テキスト、参考文献			
看護の統合と実践①「看護管理」医学書院 看護の統合と実践②「医療安全」医学書院			

科目名	統合Ⅱ	開講時期	3年次 後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式	講義・演習	実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：専門分野での技術学習を踏まえ、現場に則した看護実践ができる能力を養う。</p> <p>目標：1. 複数の患者に必要な看護実践の判断・調整ができる。</p> <p>2. 臨床場面において、複数の技術を組み合わせ、一連の流れで実践できる。</p> <p>3. チームで連携した看護が実践できる。</p>			
講義計画			
1回目	看護技術統合の目的 事例の看護計画、学習の進め方		
2回目	事例に基づく複数組み合わせ演習(情報収集)		
3回目	事例に基づく複数組み合わせ演習(情報収集)		
4回目	事例に基づく複数組み合わせ演習(情報収集)		
5回目	事例に基づく複数組み合わせ演習(計画立案)		
6回目	事例に基づく複数組み合わせ演習(計画立案 グループワーク)		
7回目	事例に基づく複数組み合わせ演習(計画立案 グループワーク)		
8回目	事例に基づく複数組み合わせ演習(計画に基づき実施)		
9回目	事例に基づく複数組み合わせ演習(実施後の振り返り)		
10回目	事例に基づく複数組み合わせ演習(修正後の実施)		
11回目	事例に基づく複数組み合わせ演習 振り返り		
12回目	事例に基づく複数組み合わせ演習 振り返りと修正		
13回目	演習のまとめ(発表会準備)		
14回目	演習のまとめ(発表会準備)		
15回目	演習のまとめ発表会		
評価方法			
レポート、演習への参加			
参考書、テキスト、参考文献			
<p>基礎看護学③「基礎看護技術Ⅱ」医学書院</p> <p>看護の統合と実践①「看護管理」医学書院</p>			

科目名	統合Ⅲ	開講時期	3年次 前期・後期
単位数(時間数)	1単位(30時間)	担当教員	
授業形式		実務経験	看護師
講義概要			
<p>目的：専門職として、国内外における看護支援の方法を学ぶ。また、継続学習の重要性を認識し、研究的態度を養う。</p> <p>目標：1. 国際社会における看護の役割拡大を知り、国際支援の方法を理解する。 2. 災害時の医療体制・管理・各期の看護の役割が理解できる。 3. 研究的プロセスを踏まえ、ケーススタディレポートを作成する。</p>			
講義計画			
1回目	国際看護 看護における国際化の視点		
2回目	国際社会における看護の対象 多様な文化と看護		
3回目	国際協力活動と看護		
4回目	災害看護 災害の定義と分類		
5回目	災害のサイクル メンタルヘルスケア対策		
6回目	災害医療体制 災害時における医療体制、管理		
7回目	災害各期における看護の役割 災害看護情報		
8回目	看護研究の実際 研究計画書作成の実際		
9回目	看護研究の実際 研究計画書作成の実際		
10回目	看護研究の実際 研究計画書作成の実際		
11回目	看護研究の実際 研究計画書作成の実際		
12回目	看護研究の実際 研究計画書作成の実際		
13回目	ケーススタディーの発表		
14回目	ケーススタディーの発表		
15回目	ケーススタディーの発表		
評価方法			
筆記テスト・レポート評価			
参考書、テキスト、参考文献			
看護の統合と実践3「災害看護学・国際看護学」医学書院 「黒田裕子の step by step」 医学書院			

実習名	在宅看護論実習	実施時期	3年次 前期
単位数(時間数)	2単位(90時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：地域で療養している対象のQOLを尊重した在宅看護が実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標： 1. 地域で療養する対象を理解する。 2. 在宅療養者とその家族がもつ健康課題を把握し、個別的な援助を展開する。 3. 保健医療福祉チームにおける在宅看護の役割を実践する基礎的能力を身につける。 4. 在宅療養者を取りまく社会の変化に関心を持ち、主体的に学習する態度を養う。</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	12日間（1日7.5時間）		
実習方法	学生は1グループ7名前後で編成し、居宅介護支援事業所（2日間）および訪問看護ステーション（8日間）において、利用者を対象とした看護の実践を通して学習する。		
実習内容	<p>初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。</p> <p>実習内容と方法の詳細については、「在宅看護論実習要項」を参照。</p> <p>臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。</p> <p>実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。</p>		
評価方法			
<p>1. 実習態度</p> <p>2. 実習記録物、実習課題レポート</p>			

実習名	看護の統合と実践実習	実施時期	3年次 後期
単位数(時間数)	2単位(90時間)	担当教員	
授業形式	実習	実務経験	看護師
実習概要			
<p>目的：既習の知識と技術を統合し、あらゆる健康段階の対象に応じた実践に即した看護を学ぶ。</p> <p>目標：1. あらゆる健康段階にある対象を理解し、円滑な人間関係を築くことができる。 2. 複数の対象の健康課題を理解し、問題解決に必要な看護を実践する。 3. チーム医療におけるマネージメントの実際を通して、看護の役割を自覚した行動がとれる。 4. 看護実践を通して、主体的に行動し、専門職業人としての態度を身につける。</p>			
実習計画			
学習方法及び内容			
実習期間	12日間（1日7.5時間）		
実習方法	学生は1グループ6名前後で編成し、複数の入院患者を対象とし、看護の実践を通して学習する。さらに、看護師長業務やリーダー業務を見学し、看護管理に対する学びを深める。		
実習内容	初日に、施設オリエンテーションと受け持ち患者の選定と情報収集を行う。 実習内容と方法の詳細については、「看護の統合と実践実習要項」を参照。 臨地最終日はカンファレンスを通して、実習を振り返っての学びを統合する。 実習最終日は学内にて、学びの共有を行う。		
評価方法			
1. 実習態度 2. 実習記録物、実習課題レポート			